

附属平野小学校 研究だより

第4号

平成27年3月発行

大阪教育大学附属平野小学校



2月7日、本年度の授業研究発表会を行いました。遠方から多くの先生方が参加され、授業や子どもたちの様子をご覧いただき、協議会では活発な意見交換がなされました。研究主題「学び創り続ける子どもの育成（第2年次）」を掲げるものの、子どもたちに自らの学びを継続・発展するよう促すことはそう簡単ではありません。教師たちの取り組みも、日々、試行錯誤の連続です。しかし、子どもたちの学習への動機や意欲が高まり、それが持続する鍵となるいくつかの重要な支援の方策を見出せてきています。

次年度は、3年目となり各教科・領域における授業計画・実践、子どもの姿による事実の検証、さらなる教師の支援の改善、そしてカリキュラムを視野に置いた提案に向けて取り組んで参ります。この研究だよりで、1年間の歩みをご覧頂き、そして保護者の皆さまにもご意見を賜れば幸甚です。

学校長 峯 明秀

研究教科紹介



体育

2月7日の研究発表会では、子どもが学びに没頭する姿を引き出すために、「自己決定感のある授業」「適度な困難度のある授業」を意識した提案を行いました。サッカーやタッチフットボールにおいて、子どもたちがその日どんな動きをしたのか、どのような姿を目指すのか、作戦をどうするかなど自分たちで考えること。そして、そのためにどのように取り組んでいくのか、チームでどんな練習をするのかを考えることが「自己決定感」となり、意欲的に学習に向かう姿があらわれていたのではないかと感じています。しかし、子どもたちに考えさせることと教師が教えることとのバランスをうまくはかる必要があるという課題も見えました。「自己決定感」を持たせて、子どもたちが自ら学びを創り続けていく授業の流れの中で、必要な技能の獲得に向けて教師がいかに手立てをうっていかのか。ということを考えて、「子どもが学びを創り続ける」ための研究を続けていきたいと思えます。





今年度の生活科・総合的学習では、気付きの連鎖で育てる自他尊重の生き方を考える子どもとして、探究的な活動で深める気付きの研究を進めてきました。

生活科の授業では、1年生と2年生の交流学习を行いました。お互いが楽しめるアトラクションを作る活動でした。グループで1つのアトラクションを作るために、話し合いを重ね、お互いを理解し、交流することの楽しさを感じるとともに、相手の立場に立つことの大切さを考え、それらの中で自分自身を見つめる機会となりました。

総合的学習では、再生可能エネルギーに関する学習を行いました。エネルギーサミットを開き、学校図書やiPadで調べた様々な発電方法のメリット・デメリットの意見交換がされました。そしてどの発電方法が未来のエネルギーとして相応しいのかを考えました。

自分たちで電気を作る活動では、LEGOブロックを使って風力発電装置を作りました。弱い風でも良く回り、電気を作ることができる風力発電装置を作ろうと取り組みました。プロペラ部分に工夫を重ねたり、サボニウス型の風車にしたりしながら、「実験」→「改良」→「交流」をくり返していく中で探究的な活動が見られました。お互いの意見を交流する中で、各グループの考え方を認めながら、自分たちの発電装置の改良に生かしていました。

このように子どもたちが再生可能エネルギーについて考えることは、未来の生活を考える一端にもなるだろう。このような電気エネルギーについて今のうちからしっかりと考え、持続可能な社会を構成する一員になってくれるものと考えています。



学びを創り続ける子どもの育成 ～第2年次～（授業研究発表会 2月7日）

平成27年2月7日（土）に本校授業研究発表会が開催されました。「学びを創り続ける子どもの育成（第2年次）—学びを創り続ける授業における教師の役割—」という研究主題のもと、10教科（国語・社会・算数・理科・生活、総合・音楽・図工・体育・道徳・外国語活動）計20本の研究授業が行われました。当日は、全国各地から数百名の方々が本校にお越しになり、本校の研究内容や授業実践について見ていただくことができました。また、シンポジウムではコーディネーターの木原先生（大阪教育大学）を中心に、シンポジストの粕谷先生（奈良教育大学教職大学院）、小島先生（大阪教育大学）、土山先生（大阪教育大学）に、「学びを創り続ける授業の特徴を探る」というテーマで討議して頂きました。本校の研究成果と課題を明確にさせていただくと共に、次年度へ向けて取り組むべき研究の方向性について、わかりやすくご教授いただきました。来年度の授業研究発表会は、平成28年2月13日（土）に開催の予定となっております。



教科の掲示板



オーストラリアの子どもたちに学校紹介をするためのプレゼンが出来上がりました。子どもたちによって、1人でする子もいればグループでする子もいたり、タブレットを使ってする子もいれば、画用紙や模造紙を使ってする子もいたり様々でした。これを現地の子どもたちが見て、また感想をもらえると次の活動への意欲としてつながり、学びを創り続ける姿へとつながっていくことを期待しています。



2月の研究発表では、ものづくりの活動を中心とした単元構成「つくろう！ふりこ博物館」と、総合的な学習の時間と関連した単元構成「電気の利用」の授業を提案しました。今後、場面ごとの教師の役割を整理するとともに、他教科・領域との関連をふまえた理科の単元開発を続けたいと考えています。



2月7日の研究発表会では、「説明する」文章についての授業を行いました。新入生に向けての学校紹介や、下級生にプレゼントするおもちゃの説明書作りなど、子どもたちの思いや願いに沿って「書く」活動を設定することで、今までに学習した「説明する」ときに必要な要素を入れながら、主体的に書く姿が見られました。



授業研究発表会では、子どもの気づきでつなぐ授業を3本公開しました。その中で、適度な困難度のある課題の設定、iPadやホワイトボードでの子どもの考えの視覚化・共有化、やってみたいことに取り組む授業など、授業における師の役割を提案しました。この研究を通して、子どもの気づきでつなぐ授業には、単元構成の工夫が必要であることが見えてきました。



2月の研究発表会では、「学級活動と関連を図った道徳の授業づくり」について提案しました。公開した授業は、学級活動と関連を図ることで道徳の時間としての特質を果たしながらも、学びを創り続ける過程の中で有用にはたらく授業として成果があったと考えています。今後は、学級活動と関連を図りづらい内容項目についても研究を進めていきたいと考えています。



2月研究発表会において、子どもたちの生活経験を大切に、1年生における《じゃんけんうた》づくり、4年生における《はやしうた》をうたう活動の提案をさせていただきました。子どもたちの生活に根付く郷土の音楽を教材とすることの有用性、さらには教材化における文化的背景の取り上げ方について、来年度より研究を深めていきたいと思っています。



2月の研究発表では、発達における表現の広がりのある題材設定「ねんどであそぼう」と「のぞいて発見」の授業を提案しました。今後、授業の展開における教師の役割を整理するとともに、子どもの見取りを活かした単元開発・構成を考えています。



子どもたちが問題意識を持って学びを創り続ける姿になるよう、子どもたちの思いや願いに沿って学習計画を立てていきました。3年生では「昔と今の暮らし」、6年生では「持続可能な社会の実現に向けて」というテーマで、新たな教材創りにも挑みました。ICTも駆使しながら、更に子どもが意欲的に取り組める授業・単元づくりをしていきます。